

5. 新潟市におけるカラスの生息状況

年間を通して新潟市域におけるカラスの生息状況について調査してきた。広大な新潟市域の調査に対して労力的にも経費的にも限りがあることから、調査不十分な点や不明な点が多く残されているが、一応の概況把握ができたものと思われる。以下、既往調査による知見等も踏まえて概要をとりまとめた。

1. 生息数

カラスの生息数については、冬季罫調査によりその概数を把握し、ミヤマガラスについては15,000±羽を確認した。しかし、ハシブトガラス、ハシボソガラスの確認数は3,000羽程度ということになり、平成14・15年度の調査と比べても、十分な捕捉はできなかった。また調査に協力いただいた、にいがた野鳥の会の方々の日頃の観察や繁殖期及び冬季の現地調査等を通じての印象と比較しても少ない値となっている。このことから、冬季罫調査で捕捉できなかった分を大雑把に推測しながら、新潟市域におけるカラスの生息数(概数)について表5-1に整理してみた。

①ミヤマガラス

新潟市域におけるミヤマガラスの渡来生息数は、前述のとおり、15,000±羽程度と推定される。平成14・15年度の調査による4,000±羽(旧新潟市域)に比べ倍増しているようである。

主な罫は、中央区の関屋海岸林、西区の新潟大学五十嵐キャンパス、秋葉区の新潟市バイオリサーチセンター付近で、それぞれ5,000羽規模の罫となっている。

平成14・15年度の調査で1,300羽程度のミヤマガラスが記録された北区の三菱ガス化学構内は、何らかも対策が講じられたのか、今期は罫の利用はみられなかった。

一方、東区のじゅんさい池公園ではミヤマガラスを含め300羽程度の罫が確認され、三菱ガス化学構内を罫としていたカラスの一部が移動した可能性も考えられる。

また平成14・15年度の調査時点には主要な罫のひとつとなっていた西区の青山海岸林も、今期は罫の利用は確認されなかった。

②ハシブトガラス・ハシボソガラス

ハシブトガラス、ハシボソガラスについては、冬季罫調査では十分な把握ができなかった。平成14・15年度の調査では、旧新潟市域においてハシブトガラス：2,000～3,500羽、ハシボソガラス：1,500～2,500羽が推定されている。北区の三菱ガス化学構内の罫がなくなり、ここでカウントされていた2,000羽程度の確認が難しくなったが、繁殖期調査や市内の生息分布の状況から、特にハシブトガラス、ハシボソガラスが減少したという情報や観察はなく、平成14・15年度調査当時と同等もしくはそれ以上が生息しているものと考えられる。

一方、新たに新潟市域となった秋葉区や南区、西蒲区の生息数も加わってくることになる。そのうち西蒲区では2,300+羽のハシブトガラス・ハシボソガラスの罫が確認された。風間辰夫先生によると、以前、西蒲区岩室の石瀬峠で5,000+羽のハシブトガラス・ハシボソガラスの大群を観察したことがあるとのこと、角田山麓や新津丘陵におけるカラスの生息数の把握はなかなか困難である。

南区の現地確認踏査では、夕刻(16時頃)、ハシブトガラス・ハシボソガラスの群が田上町の山林方向に移動していくのが観察されており、市外に罫をもつカラスも相当数いるものと考えられる。

平成14・15年度調査では、中野山・丸山地区(現江南区)のカラスは三菱ガス化学構内に罫入りしたとしており、主要な罫がみられない江南区でも相当数が生息している。

表5-1 推定生息数(概数)

区	主な罫地点	推定生息数			備考
		ハシブトガラス	ハシボソガラス	ミヤマガラス	
北区	三菱ガス化学構内(11月まで)	(10±)	(50±)	(300±)	12月以降、三菱ガス化学構内の罫は無くなった。
	北区全体	80 ±	120 ±		7月の確認及び冬季の確認踏査記録から200羽±を想定
東区	じゅんさい池公園	60 ±	90 ±	150 ±	
中央区	関屋海岸林 日本歯科大学、浜浦小学校近くの海岸林	330 ±	50 ±	5,000 ±	
西区	青山海岸林 (罫、確認できず)	300 ±	200 ±		主要な罫以外に500羽±を想定
	新潟大学五十嵐キャンパス	50 ±	50 ±	5,000 ±	
上記以外の東区・中央区・西区		600 ±	400 ±		主要な罫以外に1000羽±を想定
江南区	(罫、確認できず)	300 ±	700 ±		主要な罫以外に1000羽±を想定
旧新潟市域 計		1,500~2,500	1,500~2,500	10,000 ±	計：14,000±
秋葉区	新潟市バイオリサーチセンター付近	300 ±	700 ±	5,000 ±	田上町の山林等に罫をとるものも含め1000羽±を想定
南区	(罫、確認できず)				
西蒲区	三根山藩址のスギ林	1,000 ±	1,500 ±		
新潟市域 計		3,000~4,000	3,500~4,500	15,000 ±	計22,000±

※赤字は冬季罫調査により確認された生息数

【平成14・15年度調査】

区	主な罫地点	推定生息数			備考
		ハシブトガラス	ハシボソガラス	ミヤマガラス	
北区	阿賀野川以北 三菱ガス化学構内のマツ林	880	1,320	1,300	ハシブト：ハシボソの比率4：6
東区	じゅんさい池公園				平成14・15年度時点では罫の記録なし
中央区	関屋地区 浜浦小学校、日本歯科大学近くの海岸林	2,400	1,600	700	平成14年度以降、罫として利用されるようになった
西区	青山地区 青山6裏のマツ林			300	
	新潟大学五十嵐キャンパス			1,500	平成14年1月から罫として利用されるようになった
江南区	亀田バイパス以北			(500)	罫は三菱ガス化学構内のマツ林
旧新潟市域 計		2,000~3,500	1,500~2,500	4,000 ±	計9,000±

資料：平成14年度「新潟市に生息するカラスの生息及び生態調査(業務委託)報告書」
平成15年度「カラスの生息及び生態調査業務報告書」

表5-1では、上記のような点を踏まえて、ハシブトガラス・ハシボソガラスの生息数を見積もっている。その結果、ハシブトガラス：3,000~4,000羽、ハシボソガラス：3,500~4,500羽と想定しているが、相当の幅をもつ概数であり、今後精査が必要である。

2. 営巣・繁殖

平成14年度の調査では、旧新潟市域におけるカラスの主な営巣地として、海岸林、河川敷の樹林、屋敷林、さらには市街地のビルの屋上やネオンサイン塔などをあげている。

ハシボソガラスの営巣地は、阿賀野川河川敷、太郎代・東港・松浜の海岸林、入船町から関屋分水までの海岸林、西総合スポーツセンター・新潟大学キャンパス裏の海岸林、新々バイパス陸橋橋台、磐越道ときめき橋橋台、善久河川敷公園、佐潟周辺のクロマツ林で、合わせて650番ほどが数えられたとしている。

ハシブトガラスは、島見浜海岸キャンプ場・海水浴場のゴミ集積場近隣の海岸林、東港管内のニセアカシア林、新崎駅南パチンコ店のネオン上、新井郷川左岸の樹林(100m間隔のゴミ集積場近辺)、じゅんさい池公園、夕栄町から西湊町・二葉町・新潟駅万代口および南口・東大通・女池等々の住宅街・繁華街の寺社境内・ビルや学校の屋上、ネオンサイン塔など350番ほどが数えられ、周辺にはゴミ集積場があったと報告している。

今回の調査では、営巣環境や営巣木などの営巣条件についての調査を行い、上記のような海岸林や河川敷樹林の他に、田園地帯・集落の社寺林や屋敷林への営巣が多いことを確認した。また、市街地や住宅地では、社寺林の他に公園や施設の樹木群に営巣する事例が多く確認されている

営巣する樹木の種類は、マツ、スギが多く、次いでニセアカシア、サクラ、ケヤキなどとなっているが、特に樹種に対する選好性があるわけではなく、適当な樹木があれば営巣するといった傾向がみられる。

東北電力株式会社より提供いただいた資料に基づく、電柱にかけられた巣の除去の件数は1繁殖期で1,000件近くにもなり、市街地・集落を問わずいたる所の電柱が営巣に利用されている実態が確認された。

このような営巣地の実態から、発達した樹林・樹木がある海岸林、社寺林、屋敷林などがまず営巣場所選ばれているが、そうした樹林環境がない場所では、公園や施設の植栽樹木群や生垣、鉄塔や構造物、電柱など、人の手が届かず安全性さえ確保できる場所であれば手当たり次第に営巣することが想定される。

3. 日周行動と採食

今回の調査では、日中のカラスの行動に関する詳しい調査は実施していない。既往の調査知見や若干の現地観察記録を整理すると以下のとおりである。

①ミヤマガラス

10月半ば～3月上旬に渡来し越冬するミヤマガラスの日周行動については、山本未来(2009年度新潟大学農学部卒業論文)が詳しい調査を行っており、以下のような結果を報告している。

- a. 朝は、空が白む頃、徐々に埒から出て、近くの電線に集合する。しばらく電線に留まった後、空が明るくなるのをまって、いくつかの群となって採食地に飛び立っていく。出発の時刻は、12月上旬で6:00～6:30、12月下旬で6:30～7:00、1月上旬で7:00～7:30と、日の出時刻の変化に伴って徐々に遅い時刻にずれた。
- b. 夕方は、20～50羽の群で埒周辺に戻ってきて、上空を巡回しながら徐々に大きな群となり、付近の電線に集合し、埒入りする。埒入り前の最大羽数になるのは16:30から16:45頃、埒入りを完了する時刻は17:15～17:30であった。
- c. 採食地は、埒に近い水田が中心で、埒を出発して戻るまでのほとんどの時間(70%)を餌の探索、採食に費やす。
- d. 採食地の水田では、同一地区内での移動はあるものの、他の地区に移動することはなく、終日ひとつの地区にとどまり続けた。
- e. 採食地は、近くに電線や木立などの避難場所がある水田である。
- f. 糞による食性分析の結果、モミガラ、小石、イネ、ウルシ科やナンキンハゼの種などの出現頻度が高く、水田における二番穂や落穂が重要な食料となっている。

日中、水田と電線や木立がセットになった場所にカラスの群がみられることは、今回の現地確認踏査でも確認されており、避難場所のある水田で終日、採食に励むというのがミヤマガラスの日周行動の基本であるようである。

②ハシブトガラス・ハシボソガラス

ハシブトガラス・ハシボソガラスの日中の行動について、平成14年度調査では以下のように観察している。

- a. 繁殖期においてはハシブトガラス・ハシボソガラスともに雛への給餌や採餌の伝授に終始している。
- b. ハシボソガラスは海岸林を中心に行動し、橋台上に営巣するものなどは、近隣の雑木林内を中心に行動している。主に小鳥類の巣立ち雛を採餌している。
- b. ハシブトガラスは主にゴミ集積場にてゴミ漁りをしていたが、犬や猫の轢死体やカエルの死骸などを採餌していた。
- c. ハシボソガラスはミヤマガラスが渡来すると直ぐに混合し、自らも群れを作る。日中はほとんどミヤマガラスと行動を共にしている。群れを作っている関係からか、行動も採餌もほとんどを水田の中において、危険を感じたり、他の水田へ移動する前などは、電線上に集団でとまる。
- d. ハシブトガラス・ハシボソガラスともに、巣立ち後もしばらくの間、雛は親から給餌を受け、独力採餌の完成までには約1ヶ月間を要した。育雛期においては営巣地を離れることはない。その後もしばらく親子の単位で行動し、育雛期を終わると次第に集団化し群れを成す。この頃から(7～8月)夏埒を形成するようである。

4. カラスと人々の生活との関わり

①ミヤマガラス

新潟市で、冬季、ミヤマガラスの群がみられるようになったのは平成6年(1994年)頃からであるとされる。その後、渡来数は年々増加の傾向にあり、今回の調査では、旧新潟市域で10,000羽以上、新潟市域全体で15,000羽以上と推定される。

早朝と夕刻に埴周辺の上空を旋回するカラスの大群や埴近くの電線にびっしりと並ぶカラスは、人々に異様な印象を与え、糞害についての苦情もきかれる。

新潟市に寄せられるカラスに関する保護・苦情情報は、毎年58~89件あるが、その80%が繁殖期(3月~7月)のものである。多くが中央区など市街地中心部からのもので、また営巣、巣からの落下、威嚇など繁殖行動に関するものが多数を占めている。この繁殖期におけるカラスの行動は、越冬期に大群で渡来するミヤマガラスではなく、留鳥として通年ここに生息するハシブトガラス、ハシボソガラスによるものである。

多くの市民は、ゴミ集積場を漁るハシブトガラスや繁殖期に威嚇行動をとるカラスとミヤマガラスを区別せず、カラス全般として苦情・非難しているように思われる。

山本未来(2009年度新潟大学農学部卒業論文)により指摘されているように、ミヤマガラスの日周行動は、埴と採食の場である水田とを往復する生活を基本としている。群で行動するミヤマガラスは市街地のゴミを漁ることや農作物に被害を与えるようなことはない。集団で電線に止まり落とす糞は「糞害」としての実害を生じさせているであろうが、その時間は早朝と夕刻の30分ほどの時間帯に限られている。山本未来(2009年度新潟大学農学部卒業論文)は、「糞害の起こる時間と場所は特定できるため、注意を喚起したり、集中的な対策をとることが可能である」と述べている。

埴周辺で糞害が生じた場合、その実態やミヤマガラスの行動特性を把握し、効果的な対応を図ることが必要であるが、まず市民全般に対して、ミヤマガラスの行動特性やハシブトガラス、ハシボソガラスとの違いを理解してもらうことも重要であろうと思われる。

②ハシブトガラス・ハシボソガラス

上述のように、新潟市に寄せられるカラスに関する相談・苦情情報の80%はハシブトガラス・ハシボソガラスの繁殖期のものである。今回の繁殖期調査でも公園の植栽樹や生垣などきわめて身近なところに営巣している事例が数多くみられる。巣の高さが地上5m以下のものも8件、率にして5%ほどあり、人に対する威嚇や攻撃などの摩擦が生じやすくなっているといえる。

都会のカラスの問題は全国各地で市民生活との摩擦を生じさせているが、決定的な対応は難しく、餌となる生ゴミの処理、ゴミ集積場の管理など市民の日常的な配慮が求められている。繁殖期特有の威嚇や攻撃に対しても、雛のいる巣には近づかない、繁殖期のカラスの行動に注意するなどの配慮をまず喚起することが必要であろう。